教育家庭新聞

2020年（令和２年）

3月16日

月曜日

第２１６６号

弥生・蚕月・建辰月

春分の日（3/20）
清　明（4/4）
花まつり（4/8）

第３月曜日発行

教育家庭新聞社
発行所＝〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
TEL：03（3864）8241㈹
FAX：03（3864）8245
郵便振替口座　1309−53693

購読申込み　☎03（3864）8241 Eメール kks@kknews.co.jp

ホームページ　https://www.kknews.co.jp/

創刊 昭和36年７月 ©教育家庭新聞社　1部 480円

紙面案内

学校給食・食育……2面
小学生が考えた「食品ロス」をなくす知恵を競うゲームに注目が集まる。小学生から遊びながら世界の食料問題を学べるワークシートも用意され、授業等に取り入れる学校も現れた。

食育特集……3面
食育の目標とＳＤＧｓは重なるところが大きい。服部栄養専門学校の服部幸應校長から、食の世界に旅立つ学生に向けたメッセージと職業人としての心構えを聞いた。

学校保健・安全特集……4・5面
学校保健を担う養護教諭が一堂に会する研究大会や、学校安全がテーマの研究実践発表会が続き、その動向を取材。対応が続く新型コロナウイルス感染症への予防策をまとめた。

教育旅行・体験学習……6面
昨年10月末、出火により焼失した世界遺産の沖縄・首里城の遺構を巡る復興モデルコースが公開された。最短は30分から、最長で２時間を超えるルートまで。「今だけ」の体験がある。

環境・消費者教育……7面
東京都小中学校環境教育研究発表会が開催され、「プラスチックごみ」や「食品ロス」といった現在社会の課題に向き合い、小学生が今後どう生活するかを考えた取組が発信された。

学校図書館……8面
「図書館を使った調べる学習コンクール」や「読書感想画中央コンクール」等、子供と図書館や読書に関連したコンクールの多くが発表・表彰を迎える時期。新型コロナウイルスの影響でイベント取りやめが相次いだ。頑張った子供たちの成果を紙上で紹介する。

連　載

教職員のメンタルヘルス　第65回…１面
学校給食は食育の教材　第58回…２面
学校の感染症　第14回…４面

■Twitter
@kyoikukatei

■KKS Webはこちら→

「教育家庭新聞」購読申し込み書

「教育家庭新聞」は毎月第３週に発行します。郵送でお届けします。電話・ＦＡＸ、またはＨＰからもお申し込みいただけます。
購読者には、新聞紙に加えて、読者専用WebページにアクセスできるIDとパスワードをお届けします。
1. 電話 03·3864·8241（弊社販売部）　2. FAX 03·3864·8245
3. ホームページアドレス https://www.kknews.co.jp/　（１部 480円）

お申し込み書（年間10回4800円）5·12月号が休刊です

お名前	
ご職業	
ご住所	〔自宅・通勤先〕（どちらかに○を）　（〒　-　）
連絡先	電話　（　） / FAX　（　）

お支払方法
ご連絡を頂き次第、郵便振替及び銀行振込の用紙をお送りします。どちらかでお支払いください。

6割の学校でがん教育

前年比5.1%増　文科省調査

2018年度「がん教育」の実施状況は、全体が2万3000校（61・9%）で、実施率は前年より5・1ポイント上昇。中学校では6・6増加した。学年は小学校6年、中学校3年、高校1年が最も多く、93%近くが「体育・保健体育の授業」での実施だった。文部科学省が実施状況調査を公表した。

文科省の「平成30年度がん教育の実施状況調査」によると、がん教育を「実施した」学校は小学校1万1502校（56・3%）、中学校7919校（71・4%）、高校3602校（63・7%）、全体で2万3023校（61・9%）。17年度は2万1239校（56・8%）だった。

実施した教科・領域は「体育・保健体育の授業」が最も多く、実施した学校全体では2万1383校（92・9%）。その他の実施方法や学校種別の状況は下の表の通り。

扱った内容は「がんとはどのような病気でしょうか?」が実施した学校全体の86・0%、「がんの予防」が84・8%、「我が国におけるがんの現状」は62・0%、「がんの早期発見とがん検診」が46・7%などの順で多かった。

外部講師を活用した学校は3007校で8・1%。「がん経験者」や「薬剤師」、「がん専門医」等が多く、効果として活用校の73%が「健康と命の大切さについて主体的に考えることができた」と回答。次いで「がんに関する知識・理解が深まった」、「がん教育を強く印象付けられた」等の理由もあった。

外部講師の活用には「事前打ち合わせを行わないと、講師の話す内容と学校の要望にギャップが生じる」、「年間指導計画に位置付けないと、指導時間の確保が難しい」、「講師の確保が難しい」、「経費が確保できない」といった回答が多かった。

その他に工夫したこととして「養護教諭と担任教師とのTT指導」、「喫煙防止教室や食育指導などと関連して実施」、「保護者も参加できる日程（公開日、参観日等）を設定」等の事例があった。

がん教育の実施方法

上段：実施した学校数（複数回答）／下段：実施した学校数における比率

	授業						教育課程外
	体育・保健体育	特別活動	総合的な学習の時間	道　徳	その他の教科		
小学校段階	10,595	1,162	201	239	147		176
	92.1%	10.1%	1.7%	2.1%	1.3%		1.5%
中学校段階	7,401	501	333	189	198		100
	93.5%	6.3%	4.2%	2.4%	2.5%		1.3%
高校段階	3,387	183	73	2	315		77
	94.0%	5.1%	2.0%	0.1%	8.7%		2.1%
合計	21,383	1,846	607	430	660		353
	92.9%	8.0%	2.6%	1.9%	2.9%		1.5%

小学校段階：小学校、義務教育学校、特別支援学校
中学校段階：中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校
高校段階：高等学校、中等教育学校、特別支援学校

養護教諭の〝力〟に期待

全養連第25回大会が開催

全国養護教諭連絡協議会の第25回研究協議会が2月21日、東京・芝のメルパルクホールで開催され、文部科学省の基調講演やフォーラム等が行われた。学校の保健衛生の先頭に立つ養護教諭の集会だったことから、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、会場の参加者は手洗いとマスク着用に自主的に取り組んでいた【4面に続く】。

フォーラムのコーディネーターは埼玉大学・戸部秀之教授。教育の目標は「心身ともに健康な国民の育成」であり、その教育目標実現の活力の源が健康であると定義。その健康教育を推進する養護教諭には様々な専門性があり、知識・技能・経験等から育まれた〝力〟が求められるとした。

求められる力とは心身の健康状態を適切に判断する①「観察力」、心の健康問題に対応する②「カウンセリング力」、連携して課題に対応する③「連携力・調整力」、関係づくりの基本である④「コミュニケーション力」、必要な情報を集めて発信する⑤「情報収集・処理能力・情報発信力」、専門知識を活かす⑥「指導力」、組織的な活動を推進する⑦「企画力・実行力」、専門性を深めていく⑧「研究力」とした。

また、岐阜県岐阜市立茜部小・津馬史壮養護教諭、群馬県中之条町立中之条中・関淑子養護教諭、香川県立高松西高等学校・柳谷貴子養護教諭、青森県立七戸養護学校・阿部考四養護教諭が実践発表を行った。

養護教諭への期待を語る埼玉大・戸部教授

食べ残し「ある」3割

日本財団が「食品ロス」調査

若者の3割近くが「食事を残すことがある」と回答。しかし「食事を残すことは良くない」が8割近かった…日本財団「18歳意識調査」が「食品ロス」をテーマに調査した結果、56%の若者が政府の食品ロス対策が不十分だとした。

調査は今年1月、18歳を中心の若者を対象。食品が無駄には遺棄される食品ロスの問題を「知っている」と回答したのは79・3%で8割近かったが、自身の食べ残しについては27・8%で3割近くが「ときどき」「いつも」残すと回答。最も多かった理由は「量が多かった」で54・7%、「苦手な食べ物があった」（20・9%）、「口に合わなかった」（10・8%）、「時間がなかった」（2・9%）、「ダイエット中だった」（同）等が続いた。

食べ残しは「良くない」と考える者が78・4%に上った一方、「仕方がない」も2割近い17・7%で少なくない。「問題がない」も3・9%だった。

最も多く支持された削減対策は「期限切れ間近の食品を値引く」（54・8%）、次が「事業者・消費者の意識を変える」でほぼ同率。「フードバンクなどに寄付する」（40・9%）、「納品期限の緩和など流通網の改善」（22・5%）、「多量に遺棄した事業者を加罰」（19・5%）などが続いた。

賞味期限切れの食品を食べることへの抵抗は、「ない」（14・2%）と「ほとんどない」（51・9%）を合わせて7割近くが抵抗ないとした。「ない」とした理由には「消費期限が切れていなければ健康上問題ない」などが上がった。

学校図書館推進事業に新規3千万円

文科省予算

文部科学省が1月公表した令和2年度予算（案）によると、子供の体験・読書活動に1億9400万円（前年比2000万円増）を計上。そのうち読書活動の推進に2100万円、さらに新規として学校図書館総合推進事業に3000万円が含まれている。

学校図書館総合推進事業の内容は、特色ある取組などの調査研究（700万円）、司書教諭の養成講座の実施（2300万円）等。学校図書館は児童生徒の興味・関心に応じ、自主的・主体的な読書等や、創造的な活動を行う場であることから、読書活動の推進を支援するという予算主旨だ。

新型コロナウイルス対応で全修協が要請

修旅の取消・変更　ＪＲが無料で対応

新型コロナウイルス感染症への対応を目的として、今後の修学旅行の中止・日程変更する場合、ＪＲ連合輸送では手数料無料で対応することが明らかになった。（公財）全国修学旅行研究協会（全修協）、関東地区公立中学校修学旅行委員会事務局（関修委）がＪＲ各社に行っていた要請について、3月4日付けでの回答による。同協会ホームページ（shugakuryoko.com/shui/kan-shui/index.html）にも詳細が掲載されている。

対象は2020年度に連合体輸送を使用して実施する修学旅行で、新型コロナウイルス感染症の感染防止が理由の場合。使用取消の場合の取消料は全額免除となる。

日程変更については、出発日を2020年度内の別日程に変更する際は連合体輸送の連合体割引が適用される。ただし北海道・東北・北陸新幹線では変更希望日を集約し、調整できない場合には個別対応となる。東海道・山陽・九州新幹線では、同感染症の収束段階で変更内容を集約し、輸送調整。それ以外の団体には連合体割引が適用されず小口学生団体として取り扱われる。

全修協と関修委が各県中学校長等にあてた通知では、ＪＲ回答の骨子の他に関連する留意事項を記載。日程変更による宿泊施設の確保に留意することに加え、特に「関西方面では宿泊施設の状況が逼迫し、2020年夏～秋季にかけて新たな確保が困難な状況が想定されます」と呼びかけ。変更後の列車は「概ね一般客混雑の列車編成」や「臨時列車、団体専用列車」など日によって不特定になるが、「ＪＲ側の調整結果を受け入れて頂く」と注意喚起した。

別・島・視・界

人口100人の村があったとする。隣村から帰った村人1人が新型コロナウイルスに感染し発病した。慌てた村人の1人が50人分のマスクを買い占めた。それを見た10人が5人分ずつ買いだめした。最初に感染した1人が他の村人への感染予防のためマスクを買おうとした。でも100人分の在庫しかないため売り切れだった▼やがて感染は村中に広がって、買い占めた人たちも感染から逃れられなかった…小学生でも分かる寓話である。自分達だけが助かろう、さらには便乗して金儲けしようという発想が世の中に蔓延してしまった。しかしグローバル化ですっかり狭くなった世界で、自分だけが難を逃れられるという発想は、かなり非現実的だ▼70億人以上では遠い世界の他人事と思える事が、手が届くし呼べば聞こえる範囲の100人の村の出来事だと思えば、まわりまわって自分事だ。求められるのは他者の状況や立場を推測できる想像力。道徳的には「思いやり」ではなかろうか。

教職員のメンタルヘルス

教職員メンタルサポートネットワーク協会

第65回

連載　解決への手法と周囲の心得

「勇気づけ」の学校経営で実績出す

これまでの教育風土の特徴は、①改革よりも前例踏襲、②挑戦よりもまず会議、③専門性よりも共通理解などの考え方が主流で、できない理由、やらない理由の羅列に終始しがちでした（原因論）。しかし、保護者の学校に対する見方・とらえ方が多様性を帯びる中で、学校組織も「目指す目的に向かって、試行錯誤する学校組織をいかに生み出すか」（目的論）に焦点を当てた実践に移っていかなければ、明るい未来はないと感じています。

今回から「勇気づけ」・「共同体感覚」等で知られるアドラー心理学を用いて、若手教員の育成や働きやすい職場作りに素晴らしい実績をあげた小学校（以後、S小学校）の実践をご紹介したいと思います。

■勇気がわく言葉かけ

1.「勇気づけ」とは⇓評価もせず、また相手を支配したいといった下心も持たずに、今の自分の気持ちを伝えること。

例えば「すごい」、「優秀だ」…このような言葉では、相手に承認欲求を抱かせる危険もあり、褒められないと心が挫けてしまう人に育つかもしれません。一方、「ありがとう」「うれしい」のように、「横」のつながりの関係に立った「感謝」の気持ちを伝えるだけで、人は貢献感を得て、「勇気」がわき始めるのです。

■逆転の組織イメージ

2. オープンエンドの組織イメージ（管理型マネジメントでは、主体性や自主性を育てることができない）⇓今までピラミッド型の学校組織だったものを、逆三角形型の底辺に校長がいる逆三角形型の組織だと可能性は無限大です。管理職は一定の範囲の中で教員各々が自らの発想を活かして企画運営していく組織へと変貌していったのです。

ピラミッド型組織の欠点は、底辺が決まっているのでそれ以上の拡がり（発展）がありません。一方、逆三角形型の組織だと可能性は無限大です。管理職は常に上から指示管理するという立場ではなく、下から、「頑張れ、いいぞ、あとは、「下」は完全に「上」（相手）の尺度に立って行動している点です。「上」である管理職から「下」の自分が認められたいという思いで行動しています。

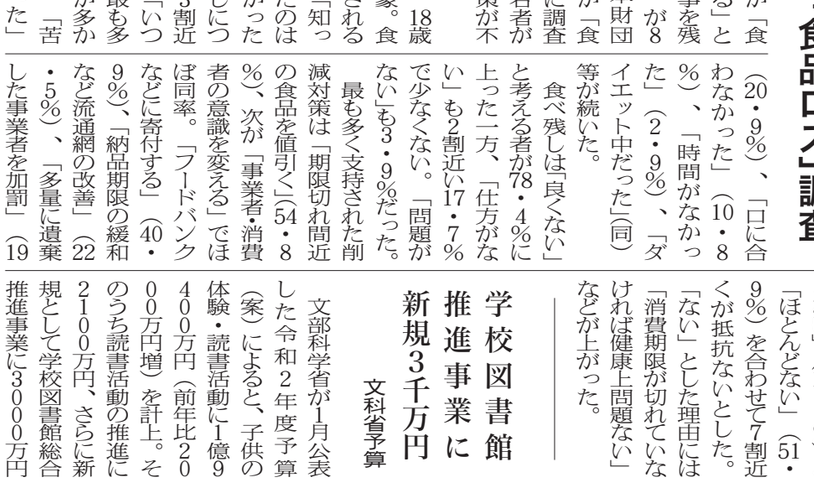
一方、アドラー心理学の説く「横」の人間関係では、経験や能力の差は認めるものの、尊厳レベルの違いは介在しません。上司と部下の間でも、まずは「仲間であること」が前提となります。そのうえで経験や実績の差で上司が部下を教育することはあっても、部下に服従を強要したりはしないのです。

③論理的結末を体験させる。例えば、管理職の指示で動いたケースで失敗した場合、「管理職の指示が悪い」となりがちですが、自らの判断で動いて失敗した場合は「自分の計画に課題があった」となり、成長のチャンスです。管理職がこまで教えたら、あとは教師自身で前に進ませ、失敗した原因は何だろうと立ち止まり、失敗を次のエネルギーに活かすような取り組みを応援します。

今回は管理職から見た初任者に対する援助を中心に述べましたが、次回は初任者から見た働き方の留意点について述べてみたいと思います。

……

筆者＝**土井一博**（どい・かずひろ）順天堂大学国際教養学部教職課程客員教授、教職員メンタルサポートネットワーク協会代表、埼玉県川口市教育委員会教職員メンタルヘルスチーフカウンセラー

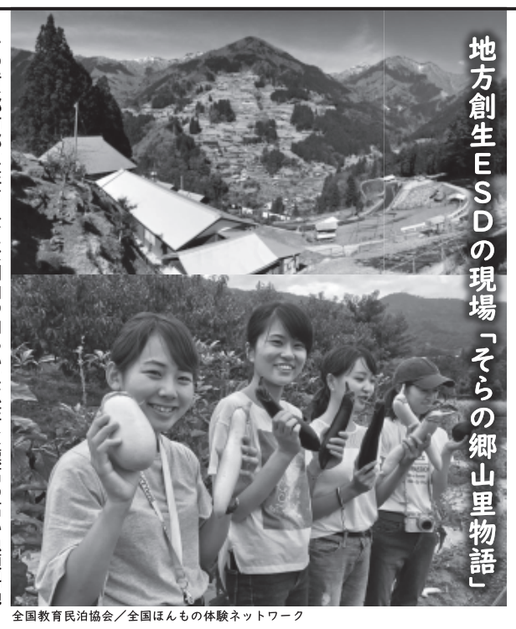


Project-Based Learning

そらの郷山里物語　PBLプログラム（課題解決型学習）

未来社会「Society 5.0」で、AI・IoT・ロボットなどの革新技術を制御し、人らしく、グローバルに活躍できる人材を育成します。

国内初ESDの実践現場と言われる理由は、世界初となる独自の実践体験型『PBL（課題解決型学習）プログラムを開発し、本物の暮らしの中でプロジェクトを展開させるところにあります。事前学習・テーマ策定、民泊、フィールドワーク・WS、パネルディスカッション、事後学習。「正解の無い問いに挑戦する力」と「サスティナブルマインド」を醸成します。



その昔、都市部に住む人々は、剣山の山あいに点在し、標高の高い急傾斜地暮らしを営む我々の集落を「そら」と呼びました。世界農業遺産に認定された現代、「そらの郷」は、いつしか当地の愛称となっています。夜空には、民家ボタルが星空と一体となり、雨の日も風の日も、力強く輝いています。

全国教育民泊協会／全国ほんもの体験ネットワーク

四国・徳島

～持続可能な開発のための教育現場～
Education sites for Sustainable Development

ESD体験型教育旅行
そらの郷山里物語

国内初!!
ESDの実践現場

ほんもの田舎体験
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

世界農業遺産の暮らし継承　ESD体験型教育旅行
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お問い合わせ：一般社団法人そらの郷　松浦・小川　☎0883-76-0713
（一社）そらの郷／にし阿波～剣山・吉野川観光圏　『徳島県・美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町』